



平成 29 年 1 月 19 日

各 位

会 社 名： ア サ ヒ 衛 陶 株 式 会 社
代 表 者 名： 取 締 役 社 長 町 元 孝 二
(コード番号： 5341 東証第二部)

問 合 せ 先： 執 行 役 員 丹 司 恭 一
企 画 管 理 部 長

電 話 番 号： 06-7777-2073

通期業績予想数値と実績数値との差異に関するお知らせ

平成 28 年 5 月 18 日に公表した平成 28 年 11 月期通期(平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 11 月 30 日)の連結及び個別業績予想数値と本日公表の実績数値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 28 年 11 月期通期連結業績予想数値と実績数値との差異(平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 11 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 3,050	百万円 △115	百万円 △130	百万円 △185	円 銭 △12.79
実績値(B)	2,803	△238	△250	△294	△20.39
増減額(B-A)	△247	△123	△120	△109	
増減率(%)	△8.1	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 11 月 期)	2,832	△116	△114	△136	△9.45

2. 通期連結業績予想数値と実績数値との差異の理由

前回業績予想発表時に記載しておりました販売拡大施策の中で、まず大手ハウスメーカー向けの洗面化粧台やトイレセットの販売については、商品の仕様が不確定で交渉に時間を要した等により販売時期に遅れが生じ、平成 29 年 11 月期第 1 四半期以降に販売がずれ込んでおります。次に、アジア地域での国際事業拡大についても試験的な介護展示場への展示は実施したものの、販売場所の確保や現地での許認可の取得に時間を要したことによって現地での本格稼働計画に遅れが生じており、本格的な販売は平成 29 年 11 月期の下期以降となる見込みであります。さらに、公団型キッチンを失注したなど平成 28 年 11 月期中には販売拡大施策の成果を挙げることはできませんでした。また、既存事業についても東日本地域で売上が落ち込んでいたホームセンター向けの販売回復に注力し、採用枠の拡大に成功したものの、予定より採用枠の拡大が遅れたことで実際の販売への反映は平成 28 年 11 月頃のスタートとなった事など、販売が伸び悩んでいる状況であります。これらの要因により売上高の実績数値が予想数値と比較して乖離する結果となりました。

コスト面においても、平成 28 年 11 月期の後半にはベトナムの人工大理石工場の生産体制が整ってきたものの、上記の販売の伸び悩みによりフルに生産することが出来ず、その結果、低コストでの洗面化粧台用天板の調達によるコスト削減効果を十分に業績に反映することが出来ませんでした。また、昨年 8 月に実施しました香川事業所への開発・生産部門の移転・集約によるコスト削減効果についても、効果が発揮されるのは平成 29 年 11 月期からとなる見込みであり、平成 28 年 11 月期には生産移行期間中のコスト増加が生じたなどコスト削減効果の発揮に遅れが生じている状況であります。

上記の販売面に加えてコストの面でも苦戦を強いられたことにより、利益面についても実績数値が予想数値と比較して乖離する結果となりました。

3. 平成 28 年 11 月期通期個別業績予想数値と実績数値との差異(平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 11 月 30 日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 3,000	百万円 △130	百万円 △185	円 銭 △12.79
実績値(B)	2,763	△245	△289	△20.01
増減額(B-A)	△237	△115	△104	
増減率(%)	△7.9	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 11 月期)	2,809	△113	△135	△9.36

4. 通期個別業績予想数値と実績数値との差異の理由

上記の通期連結業績予想数値と実績数値との差異と同様の理由により、通期個別業績予想数値と実績数値との間にも差異が生じております。

以 上